

2011年度ディアコニア事業報告

2011年度は内外共に厳しい状況であった。

東日本大震災、福島原発の事故、大雨による災害等未曾有の事柄に日本中が戸惑い、未だに十分な復興には至っていない状態である。

そうした中で、ディアコニアにおいては召天者が20名を超えた。開設当初から入居された方が高齢になり、体力が衰えたものと考えられる。死因のほとんどが老衰となっていたこと、病院でなく施設での、看取りがほとんどであった。近隣施設でも同じような傾向がみられた。

各職場からの活動報告において反省としてあげられたことは

- 1.今年度目指した「チームケア」が十分に出来なかったという点であった。このことは、問題発生時に直ぐに取り組んできたが、次年度に持ち越された大きな課題でもある。
- 2.昇天者が20名を超え、時期が集中したこと、急変者が多かったことで、職員の意気が低下した。しかし、このことが、ターミナルのあり方を問い直す機会となった。
- 3.一部の人ではあるが、組織人としての動きより、個人の判断でやってしまうことが多く、全体としてのまとまりに欠いた。このため、当事者と面接を繰り返した。

(施設部門)

上記の反省を踏まえ、改善策として挙げられることは

- ① 会議の在り方を問い直す。
 - ・問題解決の方法をみんなで考えていく。
 - ・事前に検討課題を整理し、資料を作成する。
 - ・議論したことをマニュアル化し、職員全体に浸透させる。
 - ・全マニュアルの見直しを行い徹底させる。
 - ・人員配置を見直しする等工夫をした。

- ② 連携したケアを考えていく。

他部署からの指摘を受け入れられず、看護と介護またその他の部署が対立することもままあった。感情的な面が強く出て本来、誰のための介護なのかを、見失う結果となった。全国的にも看護と介護の対立は多く、問題となっているが、各々の専門性を尊重し、誰のためなのかという基本理念に立ち返る必要性を強く感じた。早期に面接し、問題可決に向けて努力をした。

- ③ 一時期、待機者のリストの見直しを余儀なくされた。点数制になっているが、現行の総合点を下げざるを得なかった。

社会的背景として、老健と特養の役割が不明瞭になってきた。ケアハウス、グループホームが乱立している。また、近隣の施設が増床し、待機期間が短縮されてきている。高額な有料老人ホームでなく、小規模な有料老人ホームが増加している。在宅サービスの充実等が考えられる。そこで、改めて特養の役割が問い直されているとも言える。

(在宅部門)

ショートステイ・訪問介護・居宅支援事業・デイサービス

共にフル稼働の一年であった。

特にエスケープ事故、接遇等考えさせられる事例があったため原因を分析した結果、危機管理意識のレベルが個人毎に差があることが起因していると思われたため、是正に努めた。具体的には、事例をもとにマニュアル作成に取り組んだ。

各委員会の事業活動報告

① 感染委員会

ラウンドチェックによる問題点の改善が出来たことは評価すべき点であった。特別清掃を行うなど実践したことは監査のときにも評価された。また、食事介助の際のエプロン着用が徹底した。感染委員会の働きにより、ノロウイルス、インフルエンザ等の感染を未然に防ぐことが出来た。

② 拘束防止委員会

事例を通してスピーチロックについて学ぶことを目標に掲げ、具体的な事例について検討することができた。

③ 事故防止委員会

職員に対しアンケートを実施し、どのような場合に事故が発生しやすいか気付きの参考とした。一方、現在提出されている事故報告書とヒヤリ・ハット報告書の違いがわからず戸惑う新人がいたのは検討課題である。

④ 食事委員会

「残菜を少なくする努力をしよう」を目標に活動した。
嗜好調査を実施。行事食の改善等実施された。

⑤ 防災委員会

東日本大震災を教訓に防災の見直しを図りたいとしたが、開催できなかった。現場サイドに立った防災意識を高めていくために、次年度は防災委員会に施設外からの参加が望まれる。

⑥ 研修委員会

予定した研修はほぼ実施できた。外部研修の報告会が実施できなかったのは職員の勤務調整が大変であったことも起因している。

⑦ ケア協働委員会

3名の研修修了者を出すことが出来た。そのための資料作成の労力が大変だった。

⑧ ボランティア委員会

委員会として十分に開催できなかったが、ボランティア懇親会を実施し、職員との交流を図ることが出来た。

⑨ お楽しみ委員会

ディアコニア3大行事（夏祭り、敬老会、クリスマス）以外では花壇・畑で作物を作った。

⑩ その他

ルーテル教会本部で募集した、災害地のボランティアに職員2名を3週間ずつ派遣した。
県指導監査が2012年2月10日に行われたが、改善指導内容は特になかった。
特殊浴槽一台寄贈（公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団）
苦情 3件（ダイサービス、ショートステイ、居宅 各1件）

以上現場から報告、反省、改善点を含め、次年度に引き継ぎ課題を改善していく。

年間活動表

2011年度年間行事報告

4月	民謡大会参加、花見、わいわいワーク
5月	グリーنزフェスタ、買い物ツアー
6月	外食
7月	夏祭り、園芸
8月	収穫した物でユニット調理
9月	敬老祝賀会、笠原地区敬老会
10月	
11月	収穫祭
12月	クリスマス会
1月	新年祝賀礼拝
2月	節分
3月	ひなまつり

以上